

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代表者氏名	中島 健一郎	所属	広島大学大学院教育学研究科
研究会等名称	広島社会心理学研究会		
成果概要	<p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 14名 (うち認定心理士 2名) 非会員 2名 (うち認定心理士 0名)</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>2018年3月18日(日)に、大藪博記准教授(鹿児島大学法文学部)をお招きして、広島社会心理学研究会を開催した。発表テーマは「罰と報酬による社会的ジレンマの解決：集団規模と集権罰に着目して」であった。</p> <p>社会的ジレンマの解決のためにどのような仕掛けが必要なのか、その問いの答えとして、大藪先生からはすでに公刊された研究紹介だけではなく、現在論文文化している研究紹介を行っていただいた。研究方法や結果だけではなく、その仮説導出にかかわる論理展開だけではなく、他の論理展開の可能性についても触れていただいた。</p> <p>聴衆として、社会的ジレンマについての専門家が集まっていたわけでは必ずしもないものの、大藪先生の軽快なトークのおかげで背景知識の多寡に問われない充実したディスカッションを行うことができた。例えば、発表前半部分で清水裕士准教授(関西学院大学社会学部)より「社会的ジレンマの解決の話とありますが、何をもって解決と捉えていらっしゃるのですか」との質問があった。そこから「社会的ジレンマ構造を解決するための仕掛けについての研究」であるのか、あるいは「フリーライダーの防止や、集団利益の保持・向上を目的とした仕掛けについての研究」なのか、といった各研究のスタンス、ひいては大藪先生の考え・信念にかかわる議論へと発展していった。</p> <p>単なる社会的ジレンマの研究紹介ではなく、心理学研究法にかかわるインプリケーションが大きい研究会であり、その点において代表者として充実したものであったと評価している。</p>		

研究集会参加者リスト

〈研究会名〉				
公益社団法人 日本社会心理学会 広島社会心理学研究会				
研究集会開催日：2018年3月18日(日)				
	氏名	所属	会員	認定 心理士
1	中島健一郎	広島大学大学院教育学研究科	○	
2	小宮あすか	広島大学大学院総合科学研究科	○	
3	平川真	広島大学大学院教育学研究科	○	
4	森永康子	広島大学大学院教育学研究科	○	
5	北梶陽子	広島大学ダイバーシティ研究センター	○	
6	中西大輔	広島修道大学健康科学部	○	
7	橋本博文	安田女子大学心理学部	○	○
8	清水裕士	関西学院大学	○	
9	古川善也	広島大学	○	
10	西村悠人	広島大学	○	
11	相羽将智	広島大学	○	○
12	清水陽香	広島大学	○	
13	日道俊之	高知工科大学	○	
14	戸谷彰宏	広島大学		
15	難波修史	広島大学	○	
16	和田義則	広島大学		
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				

(様式5)

2018年3月23日

日本心理学会研究会

年度会計報告書

研究会名称 広島社会心理学研究会

研究会番号 17003

助成金額 ￥40,000

年月日	項目	金額
2018年3月18日	講師の交通費（新幹線代含む）	¥37,080
	講師の宿泊費	¥6,264

支出合計 ￥43,344

(うち40,000円)